

定住外国人の漢字学習支援 パソコンを使った漢字学習支援の取組

新庄あいみ
(大阪大学・生活の漢字をかんがえる会)

発表の流れ

1. 漢字教室の目的
2. 地域の実情・課題
3. 事業のねらい
4. 事業実施体制
5. 取組の内容
6. 成果・効果
7. 課題と本年度の取組



1. 漢字教室の目的

生活のなかで身につけた音声言語に文字言語を加える。

意味は知っていたけれど文字としては認識できなかった語彙、特に漢字語彙が読めるようになることをめざす。



2. 地域の実情と課題

日本語の読み書き能力の欠如は社会参加への不全感を持つに至る原因となる(日本語教育学会2009, p.130.)とあるように、日本語が主な使用言語である日本社会においては、「ひらがな・カタカナ・漢字・アルファベット・ローマ字」と多種にわたる日本語の表記を理解する必要がある。特に、漢字を理解することは、日常生活を送るうえで不可欠である。

しかし、地域の日本語教室では・・・

- ・文字教育は会話教育ほど重要視されてこなかった。
- ・従来の積み上げ形式での学習方法が採用されやすい。



→日常生活に必要な漢字を学習するまでに時間と労力がかかり、学習を挫折する要因となりやすい。

3. 事業のねらい



- ①日常会話はある程度習得した在住外国人を対象に「実際に読む必要がある漢字・語彙から学ぶ」というアプローチによって、日常生活において必要な漢字を認識する。
- ②日常生活のなかで身につけた日本語などの音声言語に文字言語を加えることによって、意味は知っていたながらも文字としては認識できなかった語彙、特に漢字語彙が読めるようになることを目指す。
- ③定住外国人を対象とした文字教育の実践モデルを提案する。

4. 事業実施体制

●多文化共生センター大阪

主催

●大阪市立総合生涯学習センター

教室確保、申し込み受付窓口、広報などにおける協力

●新庄あいみ、新矢麻紀子、永井慧子、御子神慶子、WOO WaiSheng

運営

●新庄あいみ、御子神慶子、WOO WaiSheng

講師



5. 取組の内容

①漢字教室

「日本で暮らしている外国人のための漢字教室
ーパソコンを使って漢字を勉強しようー」

対象者：ひらがな・カタカナの読み書きがある程度できる、
簡単な日本語会話ができる、など
開催回数：全20回（50時間）定員：24名
使用教材：本教室のために作成したオリジナル教材
『生活の漢字』（H20年度文化庁事業で作成）
『新にほんご〈生活の漢字〉漢字み〜つけた』（アルク）
開催場所：大阪市立総合生涯学習センター

5. 取組の内容

①漢字教室

「学ぶ→覚える→使う」から、
「見る→わかる→使う→覚える」へ



■教育実践の目的：留学生とは異なり、いわゆる「生活者としての外国人」とよばれる外国人住民は、日本語を生活の中で身につけているケースが多い。そのような形で身につけた日本語などの音声言語に文字言語を加えることによって、意味は知っていても文字としては認識できなかった語彙、特に漢字語彙が読めるようになることを目指した。

- パソコン教室での授業（15回）
生活場面のテーマを選定し、それに基づいた漢字語彙をPCを使って学習する。
- 普通の教室での授業（5回）
漢字の仕組み（漢字の構成、読み方、部首等）を学習する。

見る→わかる→使う→覚えるための実践

授業では、実際の写真を見ながら、
漢字の意味や使用場面を確認、
写真から漢字を読み取る練習、
読みの確認のための打ち込み練習、
覚えるための書き取り練習を行う。

PCを用いた
漢字学習の特徴

教室を一步出たあとは実践
の場面、街の中、家の中で、
学んだ漢字に触れる、
使ってみる。

実際に使うことで
覚えられます。

平易とされる漢字から
学ぶのではなく、
受講者が「いま知りたい
漢字」から学ぶ。
教材は全てオリジナルで作成。



H24年度に扱ったテーマ



★PC教室★

カレンダー、お金、駅、日本人の名前、
買い物①（商店街、スーパーの売り場）、
買い物②（食品表示、スーパー内表示）、
年賀状、災害情報、学校、銀行・ATM、病院、薬、
電気製品、不在連絡票、パート・アルバイト

★普通教室★

漢字の構成①（ベーシックストローク）、
漢字の構成②（部首&つくり＝意味の記号）
漢字の構成③（音訓読み、部首、音の記号）
年賀状作成、住所手書き練習、送付状作成

②漢字学習支援者養成講座

日本に住んでいる外国人のための
漢字学習支援者養成講座

目的：日本に住んでいる外国人のための漢字学習支援者を養成する。
対象者：日本語教室等でボランティアをしている人、したい人。
開催回数：全6回（15時間）定員：20名
使用した教材・リソース：オリジナル教材
講座内容：

- ①外国人と文字習得
- ②パソコンを活用した漢字学習の支援
- ③体系的な漢字学習の支援
- ④PC教室を使っのワークショップ（教材作成）
- ⑤漢字教室見学
- ⑥作成教材発表



③教材作成



見て学ぶくらしのなかの漢字

目的：日本に住んでいる外国人のための漢字教材、
特に支援者と一緒に漢字を学習する際に用いる教材を作成する。

対象：漢字を学びたいと思う定住外国人

内容：はじめに、使い方、

- *写真編* カレンダー、店、食べ物、駅、日本人の名前、住所、年賀状
学校、銀行・ATM、病院、薬、不在連絡票、パート・アルバイト探し
- *ルール編* 漢字の構成①②③

使い方：支援者と、教材を基に会話をしながら学習をすすめる。

具体的な活用例：地域の日本語教室でグループ毎（ボランティア2名、学習者3名程度）に一つのトピックを取り上げ、それぞれの経験を話し合いながら関連する漢字の認識、また漢字の認識のために漢字を書く練習を行う。学習者が街で見かけた漢字を学習するときに自宅でテキストを開き、自己学習することもできる。

活動の想定時間：1時間～2時間程度。

6. 成果と効果～受講後アンケートから～ 漢字教室・教材作成

日常生活に必要な漢字の習得

- ・ひとりで病院に行けるようになった。薬の説明文が読めるようになった。
- ・スーパーで買い物ができるようになった。
- ・カタカナ、ひらがな、いくつかの漢字を使って日本語が書けるようになった。
- ・住所が漢字で書ける。いくつかの漢字が読める。
- ・自分の名前や住所が漢字で書けるようになった。
- ・一人で電車に乗り、どこにでも行けるようになったので良かった。
- ・私にとって、この教室はとても役に立ちました。最初は教え方にびっくりしましたが、あととても勉強になりました。テーマによる漢字の勉強はときどきむずかしくても、おぼえられるようになりました。等

6. 成果と効果 漢字教室・教材作成

漢字・漢字学習に対する印象の変化

- ・漢字を書くのが好きになった。
- ・好きになった。大好き。もっと勉強したい。
- ・変わった。勉強が好きになった。自分のことひとりでやるようになった。
- ・漢字の勉強が楽しくなってきた。きれいに書けるとうれしく感じるようになった。
- ・漢字は語感や意味を持っていることがわかったので、点や線から単語や概念、感情を読み取ることができるようになりました。
- ・最初は漢字が嫌い、漢字を見ると頭が痛くなったが、全部の勉強が終わってみると、今は漢字が好きでもっと漢字を勉強したいと思っている。
- ・今は漢字をもっともっと勉強したい。前は漢字の勉強は不可能だと思っていた。今は漢字の勉強が不可能ではないと思うようになった。
- ・昔は読んでも意味が分からなかったが、今は大体分かるようになった。等

6. 成果と効果 漢字教室・教材作成

精神的なゆとり・自信

- ・自信ができた。気持ち的に余裕ができた。日本語が書けるようになって、読めるようになった。
- ・（生活が）変わった。勉強が好きになった。自分のことひとりでやるようになった。
- ・いろいろな人と一緒に勉強したり、話したり、楽しかった。等



「ママ頑張れ」という家族からの
メッセージが書かれたファイル

6. 成果と効果

漢字学習支援者養成講座

生活の漢字から学ぶという視点 について

- ・漢字を扱うのにやさしい漢字からしていくという視点ではなく、生活で使う場面から漢字を学習するという新しい視点を知ることができました。
- ・楽しくボランティアをすることがボランティアを続ける力だと改めて教えてもらった講座だった。パソコンではなく携帯電話を使って漢字学習の方法は良いアイデアだと思った。
- ・1携帯の活用。2知りたいたいと思っている漢字から勉強する方法。3ポイントを限定して、広げすぎないこと。
- ・現在、漢字学習スタートの人がいて、本の選び方、接した方など全て参考になりました。書く事に重きをおいていたので、読めたら十分の教えに目からうろこでした。
- ・パソコンを使うことで学べる範囲がひろがることを知った。（パソコンの習得が必要であるが）特に自分が聞いた言葉を打ち込んで、思った漢字に変換できれば読みが正しいことを学べる。そして変換できなければまちがえていることに気づくことができる。学習者に合わせて、必要な漢字からはじめる。かけなくても良い、わかること、よめることで十分。等

6. 成果と効果

漢字学習支援者養成講座

実践に繋げる

- ・学習者が使える漢字、使いたくなる漢字から教えるというのは説得力がありました。さっそく駅や町の漢字を写真で撮るようになりました。
- ・今回教材を作ってみて、大変だったけれどもおもしろかった。漢字という切り口で入ったけれど、話題としてふくらませていける部分がたくさんあった。
- ・現場で（低調になっている）週1回のボランティアが単調になっていた。その中で今回の講習はいい刺激になった。
- ・思いがけない視点から漢字を見ることができました。これから生かしていこうと思います。
- ・ワークショップは迷いつつ初めて、現在の自分たちでできる範囲で作りを上げた。「まあこのぐらいかな？」と思うが、他のグループのを見せてもらえたことが勉強になった。それぞれの観点が有り、ねらい、まとめ方があり、とても興味深かった。

6. 成果と効果

事業全体

- ・一般的に平易な漢字から学ぶ方法ではなく、生活上必要な漢字・言葉から学ぶという学習方法には一定の学習効果がある。また学習意欲の向上にも繋がる。
- ・一般的に難しいと思われる漢字でもPCや写真を使うなどして、その漢字とともに漢字が使われている場面を見られるので、理解しやすい。
- ・パソコンに漢字言葉の読みを入力し漢字変換をする練習を行うことで、正しく読みができていくかどうか判断できる。
- ・漢字が読めるようになることが、一人で行動できるという自信や、生活の充実感に繋がる。
- ・日本語教育学会（2009, p.134）では、生活者には万人を対象とするプログラム学習は適さないとするが、本実践は、生活者に共通する場面を取り出したプログラム学習を行うことができた。またそれを学習者が評価し、学習成果を得た。
- ・生活の漢字から学ぶという漢字学習の支援方法やコツを地域の実践の場へ繋ぐことができた。

7. 課題と本年度の取組



●漢字教室・教材作成

- ・PC操作に対する不安
 - (H25年度：PC操作練習を設定)
- ・期間が短い。テーマを増やしてほしい
 - (H25年度：24回開催。しかし継続的な講座の開催をという声は継続)

●漢字学習支援者養成講座

- ・教材作成の時間が短い
 - (H25年度：12回開催。教材作成時間を2回設定し、教材作成方法についての講座。グループディスカッションの時間を増やした)

H25年度の取り組み

●定住外国人の漢字学習支援

- ①定住外国人のための「生活の漢字」教室
 - ＝パソコンで楽しく学ぼう
 - 2013年7月～2013年12月(全24回)
- ②定住外国人のための漢字学習支援者養成講座
 - 2013年6月～2013年10月(全12回)
- ③定住外国人のための漢字教材(仮)



参考文献

- ① 定住外国人の漢字学習支援者養成講座「教材作成」
 - 『定住外国人のための生活の漢字』(仮称) 日本語教育支援センター
- ② 『生活の漢字』(仮称) 日本語教育支援センター
- ③ 日本語教育支援センター『定住外国人のための生活の漢字』(仮称) 日本語教育支援センター

4

定住外国人の漢字学習支援

パソコンを使った漢字学習支援の取組

新庄あゆみ
(大阪大学・生活の漢字をかんがえる会)

発表の流れ

- 漢字教室の目的
- 地域の実情・課題
- 事業のねらい
- 事業実施体制
- 取組の概要
- 成果・効果
- 課題と今後の取組



1. 漢字教室の目的

定住外国人が漢字を学ぶことで、生活の場面で漢字を必要とする場面が増える。

漢字は国語の基礎となるため、漢字を学ぶことは、日本語を学ぶことに繋がります。



2. 地域の実情と課題

定住外国人が増えるにつれて、地域の実情と課題は、日本語の学習支援、生活の場面で漢字を必要とする場面が増えること、漢字の学習支援の必要性が課題として挙げられます。



3. 事業のねらい

定住外国人が漢字を学ぶことで、生活の場面で漢字を必要とする場面が増えること、漢字の学習支援の必要性が課題として挙げられます。

5. 取組の内容

①漢字教室

定住外国人が漢字を学ぶことで、生活の場面で漢字を必要とする場面が増えること、漢字の学習支援の必要性が課題として挙げられます。

見る一わかる

定住外国人が増えるにつれて、地域の実情と課題は、日本語の学習支援、生活の場面で漢字を必要とする場面が増えること、漢字の学習支援の必要性が課題として挙げられます。



②漢字学習

定住外国人が増えるにつれて、地域の実情と課題は、日本語の学習支援、生活の場面で漢字を必要とする場面が増えること、漢字の学習支援の必要性が課題として挙げられます。